

# 西日本入管の現実

法務省西日本入国管理センター（大阪府茨木市郡山1-11-1）

TAKAより現状報告メール 2002/7/22

<http://www.iTrek.jp/rafiq/genzyo/taka0722.html>

From: TAKA

Subject 西日本入管の現実

今月から西日本入管に、難民申請中ながら収容されているアフガン人とクルド人、合わせて五人の面会に毎日行っています。  
はっきり言ってあそこは人間の居るべき所ではなく、劣悪な環境の中、人間が人間として扱われていません。

今までに計二人が自殺未遂、一人が発作的に薬を大量に摂取、  
今月に入ってから 計二週間の医師の不在。  
一人は心臓病で何度も発作が起きて死にかけているにも関わらず、  
四ヶ月間放置された挙げ句、やっとの事で金曜に外部診察。  
一人は「こんな事なら戦争度死んでいれば良かった」と僕に漏らしました。  
相変わらずのカミソリの使い回し。劣悪な状況なんて、上げ出せばきりが無い。  
週二回のシャワー、多くて週三回程度の30分の運動時間、  
ご飯は曜日代わりの同じメニューが延々と続き、  
彼らに言わせれば「あれは人間の食べるものではない」と言う。  
どんな物を食べさせられているのだろう。

空気の悪い閉め切られた部屋。檻に囲まれ、皮膚病が蔓延し、痒みと共に  
頭痛、腰痛、歯痛、足の痛み、目の痛みを訴えている人もいる。  
何度医師の元に足を運んでも、いつも同じ痛み止め「バファリン」が出されるだけで  
ろくにチェックしてもらおう事もできず、  
「外部診察」の申請を何度しても 返事は返ってこない。  
痛みは日々増すばかり。

そんな場所に、無期限に何ヶ月も収容される。それどころか、  
「半年は出さない、ここで日本のルールを覚えろ！」などと言われた人もいる。  
そんな所で覚えられるルールなど、僕らと共存していく上で必要な物だろうか。

全員が睡眠薬と痛み止めを毎日何錠も飲み、全員が「私の頭はおかしい」と言い、  
全員が「早く出してくれ、もう死にたい」と言い、全員が会う度に目の輝きをなくしていく。

「こんな事なら日本に来るんじゃなかった。日本に来て二度迫害をされる。  
日本に来た為に、こんなに苦しい。こんな事なら、戦争で死ぬば良かった。  
もう仮放免もビザもいらぬ。国に返してくれ。家族の居る所で死にたい。」  
もはや 希望、なんてものはとっくになくしている。

中には高血圧から来る狭心症の人がいる。彼は何度も心臓発作を起こし、「頭がバン！と言って、死んだと思った。」と何回も言う。180/110、脈拍117という状態の時でも、外部の病院に連れて行かれる事はなくちゃんと診察を受ける事もできず、三種類の薬が収容されてから出された。その薬を調べてみて僕は驚愕した。精神安定剤系の薬が二つ、胸痛止めが一つ。つまり、血圧自体を下げる薬は収容されてからこの四ヶ月、出されていなかった！

それどころか、中の医師は「大丈夫だ、我慢しろ」と彼に言ったそうです。でも、今はそんな事を言う「医師」すら居ない状況。今月の初めから、度重なる僕らの申し入れの末、彼は金曜にやっと外部診察を受ける事ができた。

もう一人、喘息を患っていて「ご飯(rice)」がアレルギーで食べる事ができず、何か他の物を、と言っても何も替えられる事はなく、毎日パンとミルクだけしか食べていない人が居る。彼の手先は、栄養失調でボロボロになっていた。

彼は先月風邪を引いた際に投薬された薬が体に合わず、心臓に悪影響が出た。その日から心臓が痛み出し、面会中も何度かうなっている。それどころか朝になると喘息の発作と共に心臓発作が起き、「息が止まる」というのが何度も出ている。しかし、入管の中で診察を受けても何も薬は出ていない。

そして彼は、先週の木曜日の晩、自殺を図った。トイレの洗剤とシャンプーを飲み込んだ。そして同日、一人は熱湯を頭からかぶろうとした。これは職員に止められて未遂に終わった。それは、一人の男性が10錠もの薬を一度に飲んだ次の日の出来事だった。

もう、全員が限界のレベルをとっくに超えている。自殺未遂をした人については、別でまたゆっくり書きたいと思います。この問題に対する上の人間の対応、あの人は本当に人間だろうか、と思った。「面会して励ますのが貴方達の仕事じゃないんですか〜。」彼が自殺をしようとしているから、対応してくれ、と言いにいった時だ。

この言葉を聞いた日の晩、彼は自殺行為をした。このメールには「なぜ収容されたのか」「法律的にどうなのか」と言う事は全然書いていません。僕には、どんな形であれ収容された人がこの状況に置かれている事自体がもうそれだけで問題だと思います。

難民申請をしているから、犯罪を犯していないから、なんて事ではなくて、人間が人間として扱われていないこの状況自体に憤るんです。生きる権利すら、彼らには与えられないのでしょうか。長文すいません。これが、西日本入管の現実の一部です。彼らの口から直接聞いたひどい事は、もっともっとたくさんあるけれど。

TAKAより現状報告メール 2002/9/19  
<http://www.iTrek.jp/rafiq/genzyo/taka0919.html>

Date: Thu, 19 Sep 2002 11:21  
From: TAKA  
Subject 西日本入管、みんなもう限界です。

TAKAです。一ヶ月のアジア旅行より帰国しました。しかし、帰国後嬉しい思いと、悲しい思いで胸が詰まりそうです。皆さんが声をあげて下さったので、四人のアフガン人が仮放免されました！本当に嬉しい、空の下での再会でした。

しかし、いまだに高血圧で苦しむクルド人、前に洗剤を飲んだクルド人、アフガン人が3人、ビルマの人も一人、全部で六人の難民申請中の人が西日本入国管理センターの壁の中に残されています。彼らはもう本当に限界です。

先週の土曜日(9/14)に、アフガン人二人が独居房(懲罰房、監禁房、保護房、呼称は様々ですが...)に36時間に渡り監禁、及び一人は制圧の為に体に痣が出来るほど押さえつけられる、と言う出来事がありました。

土曜日に、一人のアフガン人が「バファリンが欲しい」と担当官に訴え、同室のアフガン人も「彼に薬を出してあげて」と二人で話を始めたものの、入管側としては、既に大量の薬が出ているのでこれ以上出せない、と彼らに言いました。しかし、深刻な頭痛から解放されたいが為に、「薬が欲しい」と訴え続けました。

そこからしばしば口論になり、薬が欲しいと訴えていたアフガン人は、手元にあったコップを壊し、入管の説明では更にポットを投げようとした、との事。応援する形で参加していたアフガン人も、入管側の説明では「大声を出した」との事で、彼ら二人を別室に移し、個別に対応しました。

大声を出す彼を制止する為、腹部で腕を縛り、足に毛布をまきテープで固定、頭に帽子をかぶらされて帽子ごと顎をガムテープで固定、満足に口を開く事も出来ない状態で床に仰向けにされ、六人の職員に30分に渡り押さえつけられ、六人が交代してそこからまた50分床に押しつけられた、と言います。英語で「死んでしまう！助けて、助けて！」と叫んだと言っていました。

隣の部屋に入れられたアフガン人も、独居房に閉じこめられ、そのあまりの恐怖に「出してくれ！」とドアを叩いたら、1時間か1時間半ほど腕を縛られたと。

それから36時間、彼らは独居房に監禁されます。独居房には窓など勿論なく、天井には、小さなライトとカメラがついていた。トイレの水は自分で流せないのととても臭く、クーラーはついていなかったのととても暑かった。

本当に本当に、恐ろしい部屋だった...、とうつろな目で僕に語ってくれました。

薬が欲しいと訴えを始めた本人は、僕と目を合わせる事もなく下を向きながら、「私はもう全てに疲れている。こんな事なら、アフガンで殺された方がいい。もう全てじゃない。仮放免も、難民も。一日もこんな国にいたくない。私は病気です。だから薬が欲しいと言った。なのに、薬ではなく恐怖が与えられた。」と、淡々と僕に話しました。

しかし、その彼らと毎日接する現場の職員達。自制心を失う彼らを日々見つめ、そして取り押さえるのはどんな気持ちだろうか。出してあげたい、という職員もいます。しかし、自分達にも出してやる事は出来ない。と言う。きっと、職員の人辛いのでしょう…。

もう皆が限界です。笑う事も、泣く事も、慰める事も、励ます事も、笑顔を見る事も、僕には出来そうにない。励まそうと必死でかける声も、全て彼らと僕の間にある透明な壁に吸い込まれていく。

誰が悪いか、なんてもうどうでもいい。ホントにホントに、もう限界なんです。

「ここでは死ぬ事も出来ない…」と消え入りそうな声でつぶやく人間は、仮放免するに値しないのですか？「殺されたい」と思うまでに追いつめられ、一錠の痛み止めをもらうが為に自制心をなくしてしまう彼らは、仮放免に値しないのですか？そこまでして、なぜ入れておく必要があるのですか？誰の為の収容なのですか？なんの為の収容なのですか？

僕はすごく悔しい。アフガニスタンに帰りたい、と彼らに言われる事が。僕の大切な人が沢山住むこの国よりも、自分が殺されるであろうあの国の方がいい、と思われる事が悲しい。あなたの住む国が、そう思われている事が切ない。

僕の住む国に、あなたの住む国に助けを求めてきた人が、苦しんでいます。

だからもう一度、残された人々の為に声をあげてください。  
俺らは一緒に暮らしていけるんや、ちゃんと見てるんやで、って。  
だって、みんなを守る為の入国管理法、難民法なんだから。それを僕たちが認識して、彼らの事はちゃんと見てるでって声をあげていただけませんか？  
それだけ多くの人が見てくれていれば、彼らも逃亡なんて出来ないでしょ？

貴方には、彼らをアフガニスタンに帰す事も、この国で一緒に生きていこうって言う事も、どちらでもできる。

だって貴方は、この広い空の下で、「自由」なのだから。

少しでも多くの声が、法務省に、この日本という国に届く事を願っています。  
長文失礼しました。読んでくれてありがとうございます。